

令和5年度 六郷小学校学校評価（後期） 結果・成果・課題・改善方法及び学校関係者の意見

評価目録指数 保護者・児童（A+B=80%以上） ○：80%以上 ▲：80%未満  
 教職員（A=80%以上） ○：80%以上 ▲：80%未満

A:とてもそう思う B:だいたいそう思う C:あまり思わない D:思わない

項目	主な具体策	評価の観点	保護者		児童		教職員		成果(○)と課題(▲)・改善方法(☆)	学校関係者評価委員会から (課題事項について)								
			前期	後期	前期	後期	前期	後期										
			A+B	評価	A+B	評価	A+B	評価			A+B	評価						
1 自分で考える子 (様々な学び)	○主体的・対話的な学びの充実 ○1人1台端末の活用 ○読書が好きな児童の育成 【数値目標】 (1)「学ぶことに主体的である。」児童80% 「自分で考えをまとめる。」児童80% (2)学年×10分+10分の実践学習をする児童80%	主体的・対話的な学びの充実について 保：学習者や計算練習に意欲的に取り組んでいる。 児：主体的に漢字練習や計算練習に意欲的に取り組んでいる。 教：漢字や計算力・計算力(80%)の合格者(80%)の割合を高めるよう、工夫して指導している。	77.5%	▲	86.4%	○	86.9%	○	100.0%	▲	100.0%	○前回は比べて保護者の回答が、97%アップした。漢字練習や計算練習に意欲的に取り組んでいると捉えていることが分かる。児童に関しては、前回より2.1%アップした。 ▲読書は、前回より回答率が6.9%ダウンした。80%の合格を目指しているが、達成できなかった。漢字や計算力をどう伸ばしてあげられるかが課題である。 ☆漢字や計算力の定着は練習を何度もすることが大切なので、繰り返し練習する時間を確保し、定着するように指導していきたい。	自分で考える子(様々な学び)の「漢字や計算力の向上」については、特に読書の定着は、着いて見え、書かないと身に付かないのではないかと、最終的には8割位できればいいのではないか。ただ練習すればいいというものでもない。練習している過程を差、意欲付けをすることが大切である。また、タブレットPCも活用し、できない児童には個別に指導することが有効なのではないか。					
		主体的・対話的な学びの充実について 保：学ぶことに対して意欲的・主体的に取り組んでいる。 児：問題や説明を読んで、自分の考えをまとめることができる。 教：問題や説明を読んで、自分の考えをまとめることができる。	77.5%	▲	75.0%	▲	91.0%	○	83.2%	○	100.0%			▲	▲「主体的・対話的な学びの充実」について学ぶことに対して意欲的・主体的に取り組んでいる質問に対して保護者の回答は2.5%ダウンし、問題や説明を読んで、自分の考えをまとめることができている質問に対しては7.8%ダウンしたが、たいの児童は自分の考えをまとめることができていると捉えている。			
		主体的・対話的な学びの充実について 保：自分から進んで学習したり、友達と協力して課題(問題)を解くことができる。 児：児童が主体的に学び、協働しながら課題を解決するための授業を実施している。								81.4%	○				100.0%	▲	○自分から進んで学習したり、友達と協力して課題を解くことができると答ええた児童は81.4%とたいの児童は満足していることがわかる。 ☆教員は児童が主体的に協働しながら学習することができるように、課題を工夫した授業づくりを心がけていきたい。	
		主体的・対話的な学びの充実について 保：自分から進んで学習したり、友達と協力して課題(問題)を解いたりする授業に満足している。 児：児童が主体的に学び、協働しながら課題を解決する授業実践に満足している。													87.5%	▲	○自分から進んで学習したり、友達と協力して課題を解いたりする授業に児童が満足していることが分かる。 ▲児童が主体的に学び、協働しながら課題を解決する授業実践にたいの教職員は満足している。「とてもそう思う」と回答できるように、あと一歩改善していきたい。	
		学習習慣の定着について 保：学年×10分+10分の学習をしている。 児：自宅では学年×10分+10分の学習をしている。 教：家庭学習の習慣「学年×10分+10分」を確保できるように、手引などを活用して指導している。	59.2%	▲	56.4%	▲	81.0%	○	75.3%	○	66.6%			▲	100.0%	▲「学習習慣の定着について」は保護者、児童、教職員ともに回答率がダウンした。 ☆どんな学習をしたらいいかについて再度検討し、学年ごとの決められた学習時間を確保し、学習習慣の定着を図ってきたい。 ☆今後学習習慣を定着させるために、学校活動で指導したり、具体策を示しやすくなることで、児童自ら学習調整できるように啓発していく必要がある。		
		1人1台端末の活用について 保：ICT機器(タブレット)を積極的に活用している。 児：ICT機器(タブレット)を必要に応じて学習や日常生活で活用している。 教：授業の中で、児童一人一台端末を効果的に活用できる場を設定している。	70.4%	▲	58.9%	▲	79.6%	▲	89.5%	▲	77.8%			▲	100.0%	▲「1人1台端末の活用」については、保護者と児童の回答率には開きがあった。積極的に活用している教職員も増えてきた。 ☆適切な場面でもタブレットPCが有効活用できるように、教職員の研修をさらにしていきたい。 ☆家庭での効果的な活用を増やすために、Teamsでの課題送信や課題提出など通信機能の活用や文書作成ツールを利用できるようにしていきたい。		
2 すなおな子 (豊かな心)	○素直な気持ちをもつ児童の育成 ○思いやりのある心の児童の育成 ○読書が好きな児童の育成 【数値目標】 (1)自分で「ありがとう」や「ごめんなさい」を言える児童 80% (2)自己肯定感をもつ児童 80%	自分からあいさつをすることについて 保：自分からあいさつをしている。 児：自分からあいさつをしている。 教：自分からあいさつをするなどができるよう指導している。	85.9%	○	87.5%	○	90.9%	○	96.6%	○	88.9%	▲	87.5%	○	☆自分からあいさつをすることについて、「ありがとう」や「ごめんなさい」を言うことについては、高い回答だった。前回より高い評価になっているので、100%目指していきたい。	☆すなおな子(豊かな心)の「自分からあいさつをすること」について「自分からあいさつを」「ありがとうごめんなさいを言うことができる」という質問に対して、保護者、児童、教職員全てにおいて回答が80%以上よくできている。1年生-6年生までの6年間の間に自然にあいさつができるようになり、定着しているのではないかと、また、「良好な人間関係づくり」では、教職員の回答が前回より約7%アップした。小規模校なので、人間関係が定着化してしまいがちである。顔の分かる上級生や縦割り班の先生を生かして、全児童が一緒に喜びながらコミュニケーションを図ることが大切ではないか。		
		「ありがとう」や「ごめんなさい」を言うことについて 保：自分から「ありがとう」や「ごめんなさい」を言うことができている。 児：自分から「ありがとう」や「ごめんなさい」を言うことができる。 教：自分から「ありがとう」や「ごめんなさい」を言うことができる。	92.5%	○	94.7%	○	90.7%	○	91.8%	○	100.0%	▲	87.5%	○				
		学校生活について 保：友達と仲良く、楽しく学校生活を送っている。 児：友達と仲良く、楽しく学校生活を送っている。 教：友達と仲良く、楽しく学校生活を送っている。	95.7%	○	96.4%	○	96.6%	○	91.3%	○					○学校生活については、友達と仲良く、楽しく学校生活を送っている児童が多いことが分かる。100%達成を目指していきたい。			
		良好な人間関係づくりについて 保：児童が良好な人間関係をつくり、安心して楽しく過ごせるような学級経営や生徒指導の充実に努めている。											100.0%	▲	87.5%		○	○良好な人間関係づくりについては、9.7%アップした。安心して楽しく過ごせるような学級経営や生徒指導の充実に努めていることがわかる。
		教育相談部会で話し合ったことを基に、児童のよりよい成長に向けた指導に生かしている。											100.0%	▲	75.0%		▲	○教育相談部会での協議内容を生かして、生徒指導の充実に努めていきたい。
		体力的向上について 保：積極的に運動したり、外遊びをしっている。 児：積極的に運動したり、外遊びをしっている。 教：運動の楽しさや喜びを味わわせ、運動量を増やした体育学習を実施し、体力的向上に努めている。	88.8%	○	85.7%	○	86.6%	○	78.6%	▲	88.8%	▲	100.0%	▲	▲「体力的向上」については保護者、児童、教職員ともにダウンしたが、児童が8%ダウンした。 ☆今年度も体育委員会を中心として、体力テストで課題となった投擲に関する取組をしたり、体育委員会の中心として、体力テストで昨年課題となっていた「投擲」に関する取組を実施した。その結果、体力テストの結果(A+B)が昨年度よりも15.9%アップした。運動量をいかに確保するかが鍵となるので、体力テストの各学年の実績を分析し、課題が明らかになった項目に関しては、改善できるような取組が必要であるのではないかと。			
3 元気で明るい子 (健やかな体)	○基本的な生活習慣の向上 ○心身に健康な児童の育成 ○保健安全学習の充実 【数値目標】 (1)積極的な運動し、体力向上を目指す児童 80% (2)体力テストA+Bの割合 60%	適切な睡眠時間の確保について 保：毎日、決まった時刻に寝て、決まった時刻に起きている。 児：毎日、決まった時刻に寝て、決まった時刻に起きている。	95.8%	○	96.4%	○	79.3%	▲	73.3%	○					○「適切な睡眠」については、前回と同様保護者と児童にズレが生じている。 ☆今年度も睡眠時間が増えるように、児童及び保護者にも適切な睡眠時間についての啓発をすることで、改善していきたい。			
		安全(生活・交通・災害)について 保：安全な行動(交通・生活・災害)を身に付けている。 児：安全に生活したり、避難訓練は、安全な行動をしっている。 教：安全教育(交通・生活・災害)について、継続的・系統的に指導し、危機意識の向上を図っている。	97.2%	○	92.9%	○	98.0%	○	96%	○	100.0%	▲	100.0%	▲	○「安全(生活・交通・災害)」について保護者、児童ともに90%以上だった。いざという時に、児童が自分で避難したりするなど、自分の身は自分で守れるように、今後も色々なパターンでの避難訓練を通して危険回避能力の育成に努めていきたい。			
		基本的な生活習慣について 保：朝ご飯、夜ご飯をきちんと食べている。 児：朝ご飯、夜ご飯をきちんと食べている。	95.8%	○	96.4%	○	93.6%	○	95.40%	○						○「基本的な生活習慣」については保護者、児童ともに90%を超え、前回よりもアップしている。現状を維持できるようにしていきたい。 ☆学校活動等で朝食の大切さについて指導することで、朝ご飯を欠食する児童が減るよう改善していきたい。		
		安心・安全な学校について 保：学校で安心して過ごすことができている。 児：学校で安心して過ごすことができている。	92.8%	○	96.5%	○	89.2%	○	96%	○						○「安心・安全な学校」については保護者、児童共に89%以上の回答だった。全ての児童が安心・安全な学校となるよう改善していきたい。 ☆教職員が常に危機感を持ち、安心して生活できる学校・安全な学校となるよう、日々生活していきたい。 ○児童の小さな変化を見逃さず、全職員で全児童を見守ってきたい。		
		児童の様子について 保：児童の様子をよく観察し、困っている児童には声をかけ、話を聞くことを心がけている。											100.0%	○	87.5%	○		
		安心・安全な学校について 保：学校は、安心・安全な学校に感じている。 児：学校で安心して過ごすことができている。 教：学校がより安全な学校に感じている。	91.5%	○	89.3%	○							88.8%	▲	87.5%	▲	▲「開かれた学校づくり」については保護者、教職員ともにダウンしているが、学校より保護者より1ポイント以上、ホームページも定期的にも子ども達の様子を見えている。 ☆ホームページに関しては、子ども達の様子分かる内容の情報をできるだけ多く掲載していく。	
4 よく働く子 (グローバル社会に対応できる力)	○すんぽ活動する児童の育成 ○キャリア教育の推進 ○各種機会の活用 【数値目標】 (1)進んで協力し、行動できる児童90%	すんぽ活動する児童について 保：家庭でも進んでの学習をしている。 児：活動、観察り活動などで、友達と協力して活動している。 教：児童が活動や調査活動、観察り活動などで、友達と協力して活動できるように指導している。	83.1%	○	85.8%	○	94.3%	○	88.2%	○	100.0%	○	100.0%	○	☆すんぽ活動する児童については、保護者、児童、教職員ともにダウンしている。家庭でも学校でも協力して活動できる児童の育成を目指していきたい。 ☆観察り活動での選定を通過して、友達と協力して活動する場面を多く設けていきたい。	☆よく働く子(グローバル社会に対応できる力)の「すんぽ活動する児童」の育成に向けて今後も今後の活動を継続して欲しい。		
		開かれた学校づくりについて 保：学校は、学校独自の定期的な発信はホームページの更新を通して、学校の様子を伝えている。 児：学校よりや保護者よりを発信したり、ホームページを更新したりして教育活動の情報を発信している。	91.5%	○	89.3%	○							88.8%	▲	87.5%		▲	
5 地域との連携 について	○安全安心な学校づくりについて 保：学校は、保護者や地域と連携し、協働して安全安心な学校づくりを行っている。 児：保護者や地域と連携し、協働して安全安心な学校づくりを行っている。	開かれた学校づくりについて 保：学校は、学校独自の定期的な発信はホームページの更新を通して、学校の様子を伝えている。 児：学校よりや保護者よりを発信したり、ホームページを更新したりして教育活動の情報を発信している。	91.5%	○	89.3%	○						88.8%	▲	87.5%	▲	▲「開かれた学校づくり」については保護者、教職員ともにダウンしているが、学校より保護者より1ポイント以上、ホームページも定期的にも子ども達の様子を見えている。 ☆ホームページに関しては、子ども達の様子分かる内容の情報をできるだけ多く掲載していく。	☆「開かれた学校づくり」に向けて、今後もホームページをはじめ学校よりや学校の様子分かる内容の情報を発信していきたい。	
		安全安心な学校づくりについて 保：学校は、保護者や地域と連携し、協働して安全安心な学校づくりを行っている。 児：保護者や地域と連携し、協働して安全安心な学校づくりを行っている。	94.8%	○	92.9%	○							88.8%	▲	87.5%	▲		▲「安全安心な学校づくり」については保護者、教職員ともにダウンした。民生児童委員や協議委員、PTA役員など地域の力が安全安心な学校づくりを支えている。児童は安全に登下校することができる。 ☆教職員が子どもたちの登下校の様子をしっかり把握し、地域の力の協力をいれたが、安全安心な学校づくりに努めていきたい。

保護者回答率 66.7% 内訳：1年生 (63.6% / 7/11) 2年生 (64.5% / 6/11) 3年生 (76.9% / 10/13) 4年生 (55.5% / 10/18) 5年生 (66.6% / 12/18) 6年生 (84.6% / 11/13)